

第 8 3 回 病 診 連 携 委 員 会 要 録

日 時	平成 2 9 年 9 月 2 5 日 (月)	午後 7 時 4 5 分
場 所	浪速区医師会	会議室
出席者	浪速区医師会	7 名
	南医師会	1 名
	愛染橋病院	2 名
	育和会記念病院	1 名
	大阪警察病院	1 名
	大野記念病院	2 名
	思温病院	2 名
	四天王寺病院	1 名
	多根総合病院	1 名
	富永病院	2 名
	なにわ生野病院	1 名
	日生病院	2 名
	朋愛病院	1 名
	山本第三病院	1 名
	浪速区医師会事務局	1 名

今回は大阪警察病院から初参加があった。

議 題

1. 第82回病診連携委員会報告について

前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。

2. 多根総合病院の病病連携について

現在急性期病院はいかに平均在院日数を減らして、その分急性期患者や紹介患者を受け入れるかが課題となっている。そこで大正病院と院長同士の会談から病病連携が始まり、その後月に2、3回の連携協議会を経て、現在看護サマリーに元の紹介医や相談時の連絡先などを追加した、転院時の相談シートを用いるまでになっている。その結果、大正病院の地域包括ケア病棟や療養病棟を用いることで、多根病院としては、平均在院日数を減らすことや、紹介・救急患者の受け入れが可能となり、大正病院としては、安定的な病棟運営や高度急性期病院との連携の強みと言う、お互いにメリットを得ることが出来た。

3. 各病院の病病連携のアンケート結果について

各連携病院での病病連携のためのアンケート結果の報告をいただいた。なお一部、アンケートの文面の意味が不明確な項目については未回答や推測での回答となった。

愛染橋病院：包括ケア病棟もあり、転院の受付を行っている。特に決まった病院などはないが、市大や警察病院からの転院が多い。呼吸器・内分泌の基礎疾患を有する患者は、対応できないことがある。

育和会記念病院：周囲の病院と3ヶ月毎くらいに連絡をとっている。前方支援と後方支援が分かれており、情報共有が難しいが、向後かかりつけ医との連絡も力を入れていく。

大阪警察病院：得意でない科は、他院に転院している。例えば血液内科などは同じ阪大系列のNTT西日本病院への転院など。回復期の転院先などは患者様の希望に沿える場所に直接交渉している。

大野記念病院：地域包括ケア病床は、院内で稼働しているため、現状は他院からは受付困難。向後は回転を早くして、他院からの受け入れも行いたい。大野スマイルシートを用いて、介護施設との連絡も行っている。

思温病院：ほとんどが転院を受け入れる場合が多い。(急性期終了後のワンクッションとして)急性期で対応困難な症例は転院先をリスト化し対応している。

四天王寺病院：警察病院や鉄道病院からの受け入れが多い。一般病棟も看護基準が10対1で、退院もあせらない方向である。

富永病院：特に定まった病病連携先はないが、脳卒中パスを用いたネットワークを利用し、経過をお願いしたりする。また患者様の地域や疾患に合わせて、適宜転院先を決めている。

なにわ生野病院：後送病院としては、思温病院や愛染橋病院などを利用しているが、特に病病連携を決まったところとするわけではない。

日生病院：多根総合病院主催の救急関係セミナーへの若手医師の参加を行っている。西区を中心とした療養病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハ病棟などを有する医療機関との定期的な連携を行っている。

朋愛病院：東成区の8病院で連携し、それぞれの得意、不得手などの役割を確認し、対応している。

山本第三病院：回復期リハ病棟や療養病棟は院内で稼働しているため、他医療機関からの受け入れは困難。対応困難な症例は、都度他医療機関に転院を依頼している。

4. 本会の在宅医療連携の現状について

今後も病診連携、病病連携の強化を行える地盤を作りつつ、在宅医療連携もコーディネート事業を介して行っていく予定。

5. その他

(1) ブルーカードの登録件数

合計604件、浪速区内の医師より553件、他地区の医師から51件

使用状況 のべ件数 全例で629件、浪速区590件、他地区で39件

8月1日からの2カ月でのカード動向

計70件、新規18件、更新34件、入院8件、中止3件、退院6件、

登録病院変更1件。

次回会議予定 平成29年11月27日(月)午後7時～